

編集後記

32巻をお届けします。内容が今までの年度報告が主であった研究所雑誌と違って、違和感をお持ちになった方がいるかと思います。

本号は2006年7月に「子どもの体力・運動能力の低下と競技力向上を考える」のテーマで開かれた研究所セミナーでの講師の先生方の講演内容が柱となっています。当日は学内外の大学、小・中学校の学生（院生も含む）や先生方、そして地域・体協の方など多数の参加があり、テーマに社会的なニーズのあることを所員一同確信しました。セミナーは、本年度より始まった研究所のプロジェクト研究の一貫として行ったもので、以下にプロジェクト研究の概要を記しておきます。

WHOが「Active Living（生き生きした生活を）」を1997年に提唱したように、生活の現代化のなかで子どもたちも身体活動の機会が減り、体力・運動能力の低下が起こっています。体力の低下は健康上だけでなく、我が国の国際的競技力の向上という面からみても由々しき問題です。さまざまな対策がとられているなかでの低下だけに、有効な対策を明らかにすることは体育・スポーツ界に指導者を輩出している本学の責務ではないかと考えます。

このような問題意識で体育研究所は、本年度より子どもの体力・運動能力の向上と開発を目指したプログラムの作成について、学内の先生方21名を中心としたプロジェクト研究を始めることにしました。社会的なニーズを踏まえ、本学の強みを生かした「さすが日体大」「日体大の真似はできない」と思わせるような日体大独自のプログラムを作成しますので、成果にご期待ください。

（本学広報誌「学報 NITTAIDAI」13, 2006より）

多忙ななかでセミナー講師を快くお引き受けいただき、その上講演内容の本誌への掲載を承諾された野井真吾、高木浩信の両先生に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

次号はプロジェクト研究の初年度の成果を掲載予定です。

所長 西條 修光